

出崎灰出1・2号墳

出崎遺跡緊急発掘調査委員会

序

岡山県の南部に位置する玉野市は、瀬戸内海に面する風光明媚で気候の穏やかなところであります。

玉野市は歴史的に見ますと、瀬戸内海に面する海外線において、製塩遺跡が連続して存在するとともに、『日本書紀』等の記録を見ましても盛んに製塩が営まれていたことがわかります。

ここに報告します出崎灰出1号墳および2号墳は、玉野市沼字灰出に所在し、中国電力株式会社岡山電力所の高圧送電線鉄塔新設事業予定地内にあって、関係者間の協議により現状保存が困難なことから、やむなく記録保存のため発掘調査を実施したものであります。その結果、出崎灰出1号墳および2号墳は、いずれも横穴式石室を内部主体とする古墳時代後期の円墳であることが判明しました。

本書はこうした調査の成果をまとめたものです。今後この報告書が文化財の保護、保存のために活用され、また、地域の歴史を研究する資料としてご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書の作成にあたりましては、岡山県教育委員会からは多くのご指導とご助言をいただくとともに、中国電力株式会社岡山電力所には多大なるご援助とご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

出崎遺跡緊急発掘調査委員会

例　　言

1. 本書は、玉野市沼地内の高圧送電線鉄塔および、ケーブルハウス新設事業に伴う「出崎灰出1・2号墳」の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、岡山県玉野市沼字灰出地内に所在する。
3. 発掘調査にあたっては、事業主である中国電力株式会社岡山電力所から多大なるご協力をいただいた。
4. 発掘調査期間は、平成4年3月16日から平成4年6月10日で、平成4年度に報告書作成作業を実施した。
5. 発掘調査および本書の作成は、「出崎遺跡緊急発掘調査委員会」が実施し、おもに玉野市教育委員会社会教育課職員が担当した。
6. 本報告書に使用した高度値は海拔高であり、使用した方位はいずれも磁北である。
7. 発掘調査による遺物・写真・実測図等は、玉野市総合文化センター内の文化財収蔵庫に保管している。

本文目次

序	
例 言	
目 次	
第1章 調査の経緯	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 日誌抄	2
第2章 遺跡の環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査結果	9
第1節 発掘調査の概要	9
第2節 「出崎灰出1号墳」	9
1. 墳丘	9
2. 周溝	9
3. 横穴式石室	10
4. 出土遺物	10
第3節 「出崎灰出2号墳」	15
1. 墳丘	15
2. 周溝	15
3. 横穴式石室	15
4. 出土遺物	15
5. 石室外出土遺物	16
第4章 まとめ	21

挿図目次

第1図 遺跡位置図	4
第2図 古墳位置図(1/5,000)	8
第3図 1号墳石室及び石室内遺物 出土状況(1/20)	11(12)
第4図 1号墳横穴式石室実測図 (1/30)	13(14)
第5図 2号墳石室及び石室内遺物 出土状況(1/20)	17(18)
第6図 2号墳横穴式石室実測図 (1/30)	19(20)

図版目次

図版1—1 出崎灰出1・2号墳遠景(南から) 2 出崎灰出1・2号墳遠景(北東から)	図版5—1 1号墳石室・閉塞石及び遺物除 去後状況(開口部から) 2 1号墳石室・閉塞石及び遺物除 去後状況(奥壁から)
図版2—1 1号墳石室及び閉塞状況(開口 部から) 2 1号墳石室及び閉塞状況(奥壁 から)	図版6—1 2号墳遺物出土状況(開口部から) 2 2号墳遺物出土状況(奥壁から)
図版3—1 1号墳石室状況(北から) 2 1号墳石室内遺物出土状況	図版7—1 2号墳石室内状況 2 2号墳石室内完掘状況
図版4—1 1号墳全景(東から) 2 1・2号墳検出状況	図版8—1 究掘調査終了後遠景 (鉄塔基部が古墳)(北から)

第1章 調査の経緯

第1節 調査の経緯

中国電力株式会社岡山電力所は、小豆島における夏の電力不足を解消するため、通称十庄線と呼ばれる小豆島向けの高圧電線の増設を策定した。この高圧電線は出崎半島を縦断し、半島の端突から海底ケーブルとして石島を経由し、小豆島に送られるものである。

この事業では、鉄塔とケーブルハウスを新設するが、岡山県教育委員会が昭和53年に発行した「岡山県遺跡地図（第五分冊）」によると、この出崎半島は全域が散布地として指定されているため、中国電力株式会社岡山電力所は、平成3年6月17日付けで、文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出を岡山県教育委員会あてに提出した。

この届出にあたって岡山県教育委員会は、中国電力株式会社岡山電力所に対して、工事着手前に確認調査を実施すること。また調査の結果重要な遺構等が発見された場合は、その保存等について別途協議する旨を通知した。

この通知に基づいて中国電力株式会社岡山電力所と協議した結果、「出崎遺跡緊急発掘調査委員会」を設置し、まず第1次調査として確認調査を実施する体制を整えた。

当該地域は、あらかじめ確認調査前に樹木の伐採を行ったところ、ゆるやかな尾根の中腹部が、古墳を思わせるこんもりとした小高い丘になっていることが判明し、古墳の存在が大いに予想された。

平成4年3月15日付けで文化財保護法第57条第1項に基づく、埋蔵文化財発掘調査の届出を提出し、現地確認調査を実施したところ、多数の円筒埴輪片を検出し、古墳の存在が確実となった。

この調査結果をふまえ、再度中国電力株式会社岡山電力所と協議した結果、鉄塔設置位置の大幅な変更は不可能であり、やむなく記録保存することとなった。

発掘調査は「出崎遺跡緊急発掘調査委員会」で調査方針に関して種々協議を重ね、おもに玉野市教育委員会社会教育課の担当職員があたり、第2次調査として平成4年4月2日から平成4年6月10日まで実施した。

第2節　日誌抄

平成4年

- 3月16日(月) 確認調査。トレンチ掘削。
- 26日(木) 地形測量。
- 4月 2日(木) 調査開始。トレンチ掘削。墳丘盛土検出。
- 8日(水) 墳丘盛土検出。
- 13日(月) 調査区域東西・南北セクション写真撮影。
- 14日(火) 調査区域東西・南北セクション実測。
- 15日(水) 1号墳主体部トレンチ掘削。
- 16日(木) 1号墳主体部検出。
- 22日(水) 1号墳石室内セクション写真撮影・実測。
- 24日(金) 1号墳石室内清掃・写真撮影。
- 27日(月) 1号墳墳丘清掃・写真撮影。2号墳トレンチ掘削。
- 28日(火) 1号墳墳丘実測。2号墳主体部検出。
- 5月 1日(金) 2号墳主体部検出。
- 2日(土) 1号墳南側墳丘検出。2号墳主体部検出。
- 6日(水) 2号墳墳丘検出。2号墳セクション写真撮影・実測。
- 7日(木) 1・2号墳全景写真。2号墳主体部落石除去・墳丘西側実測。
- 11日(月) 1号墳石室内実測。2号墳主体部検出。
- 12日(火) 1号墳石室内実測(遺物取り上げ)。2号墳主体部検出。
- 13日(水) 1号墳南側墳丘実測。
- 14日(木) 1号墳閉塞石平面実測。2号墳東側墳丘実測。
- 15日(金) 1号墳閉塞石平面実測。2号墳主体部検出。
- 16日(土) 1号墳閉塞石除去・清掃。羨道部写真撮影。2号墳主体部検出。
- 18日(月) 1号墳石室内平面・側面実測。
- 19日(火) 1号墳石室内平面・側面実測。2号墳主体部検出。
- 25日(月) 1号墳石室内平面・側面実測。2号墳石室内清掃。
- 27日(水) 1号墳石室内床面完堀。清掃・写真撮影。1号墳調査終了。
- 28日(木) 2号墳石室内清掃。

- 5月29日(金) 2号噴石室内清掃・写真撮影・実測。
- 6月 3日(水) 2号噴石室内実測(遺物取り上げ)。
- 5日(金) 2号噴石室内平面・側面実測。
- 8日(月) 2号噴石室内平面・側面実測。横断土層断面写真撮影・実測。
- 9日(火) 2号噴終了写真撮影。埋め戻し。
- 10日(水) 現場後片け。調査終了。報告書作成にかかる。

第2章 遺跡の環境

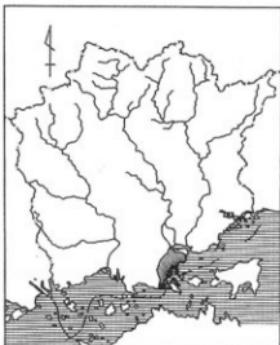
第1節 地理的環境

出崎灰出1・2号墳の所在する玉野市は、岡山県の南端部中央の児島半島南部に位置する。海岸線の総延長は約44kmを測り、南から南東の地域は瀬戸内海に面している。

倉敷市との境に位置する、王子が岳から見下ろす瀬戸内海国立公園の景観は素晴らしい、玉野市の南西部に位置する渋川海岸は、夏になると海水浴客でにぎわっている。市街地背後の丘陵地は、花崗岩の風化や浸食が著しく進み、巨岩奇岩が丘陵高所に残存した景観が各所にみられる。

玉野市は、南は瀬戸内海をへだてて香川県香川郡直島町および香川県高松市、北は児島湖をへだてて岡山市、北西は児島郡瀬崎町、西は倉敷市とそれぞれ接しており、1988（昭和63年）年に瀬戸大橋が開通するまで、四国と最短距離で結ぶ交通の要所になっていた。

また、田井地区から宇野地区にかけての海岸線は、住宅地や、瀬戸大橋の開通まで四国への玄関口であった宇野港の造成等により、大規模な埋め立てが行われてきた。



第1図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

児島半島の南端に位置する玉野市には、先土器時代から中世に至る種々の遺跡が確認され、一部調査報告もなされている。

先土器時代の遺跡としては、「宮田山遺跡」（注1）および「出崎遺跡」（注2）が知られており、サヌカイト製のナイフ形石器・尖頭器・細石器等が出土している。特に宮田山遺跡のナイフ型石器は、「宮田山ナイフ型石器」として著名である。

また、行政的には香川県に含まれる瀬戸内海の海底からは、しばしば底引き網漁によってナウマン象の化石が採集されている。

縄文時代の遺跡としては、押型文土器やサヌカイト製の石器が出土している「畠の浦遺跡」

(注3) や「波張崎遺跡」(注4)などの早期の遺跡が、瀬戸内海に面した低丘陵上に見られる。前期以降の時期の遺跡としては、JR 宇野駅東側の競輪場に近接した位置に「長崎鼻遺跡」(注5) が存在する。

弥生時代前期の壺型土器が玉野市渋川海岸から発見されているが、遺跡の概要については不明である。中期になると、玉野市玉に位置する「的場山遺跡」(注6) や、玉野市と岡山市の境に位置する「貝殻山遺跡」(注7) などの、『高地性集落遺跡』が存在する。後期になると、畿内の初期土器によく見られる叩き目を施した土器が多数出土し、古墳時代初頭まで継続された「深山遺跡」(注8) が存在する。

古墳時代の遺跡が立地しているのは、瀬戸内海に面した海浜が多く、「深山遺跡」のように海岸線から離れた内陸の谷部に位置しているものは、むしろ特異な存在である。

玉野市内には横穴式石室を持つ古墳が10数基確認されているが、それらの中で玉野市田井地区に位置する、墳丘径約13m、石室長3.3m、同幅2.7m、同高さ1.8mの横穴式石室を内部主体とする、孫座古墳から出土した土器群を、現在玉野市総合文化センター内郷土資料展示室に展示している。

1958(昭和33)年、三井造船株式会社玉野事業所によって行われた地蔵山一帯の治山事業中に、地蔵山1号墳より北へ約600mの位置で、石室幅約1m、石室高約1.5m、石室内奥行き約3mの規模の横穴式石室を持つ古墳が発見されている。当古墳の詳細な発掘調査報告は発表されていないが、出土遺物は平成2年5月25日まで三井造船株式会社玉野事業所所長室に保管展示されていた。それ以後は玉野市総合文化センター内文化財収蔵庫に保管している。この古墳を1992(平成2)年に発掘調査した地蔵山1号墳に対して地蔵山2号墳とする。

地蔵山2号墳が発掘されるのとほぼ同時期には、地蔵山1号墳の近くの三井造船株式会社玉野事業所敷地内の海岸部から師楽式土器が発見されている。(注9)

その後1980(昭和55)年、玉野市の中央からやや東寄りの出崎と呼ばれる半島の付け根の西側に位置する「沖須賀遺跡」(注10)では、玉野市立山田中学校の改築工事に先立ち発掘調査が実施され、古墳時代および平安時代から鎌倉時代の製塩に関連した炉跡などの遺構が発見されている。

この他にも玉野市内においては、山田地区的「山田原遺跡」・「品の作遺跡」、田井地区的田井の浦甲式・乙式で知られる「田井の浦遺跡」(注11)など、製塩土器が出土する遺跡が存在しており、海岸線近くで製塩を営んだ多くの集団があったことがうかがわれる。

以上のことから、土器製塩の行われていた時期には、玉野市の海岸線においても、土器製塩が連続的に行われていたと推察される。しかし、玉野市の田井地区から宇野地区を経て日比地

区に至る海岸地域においては、前途のように工業地化や市街地化が進行しており、古い時期の段階で上器の散布地や丘陵に存在していた古墳等が消滅しているため、詳細な遺跡分布状況は把握できない。

飛鳥時代になると、記録に残るものは『児島屯倉』に関するものが多く見られる。『日本書紀』欽明天皇 17 (556) 年秋 7 月 6 日の条には、蘇我大臣稻目宿称等を吉備の児島郡に遣わして屯倉を置き、葛城山田直端子を田令に任じたことが記されている。同じく『日本書紀』欽明天皇 30 (569) 年の条には王讃津なるものが、美作の白猪屯倉に派遣され田部の丁籍を定めた功により白猪史という姓を賜り、葛城山田直端子の副とした記載があり、葛城山田直端子は、このとき白猪屯倉の田令となっていたものと思われる。

『日本書紀』敏達天皇 12 (583) 年の条には、吉備海部直羽島をして百濟より日羅を召喚したときに、吉備児島屯倉において大伴磐手子連を派遣して慰勞したと記されていることからみて、児島屯倉が田部の丁籍を定めて經營される白猪屯倉などとは性格の異なった、つまり海上交通の要所に設置された特殊な屯倉であったと推察される。

この児島屯倉の所在地については諸説があるが、現時点では定まっていない。

平城京出土の木簡によると、調塩を備前国児島が行っていたことがわかり、『日本後紀』延歴 18 (799) 年の条においては、児島郡の百姓は塩を焼いて業としていたが、新しく発布された「格」により山野浜島は公私共用となったため、勢家豪族は塩業従事の百姓から海浜を奪い、貧者はますます貧しくなったという記載が見られる（注 12）。このような資料から推察して、児島半島南部周辺及び瀬戸内海の島々では、実際に塩業従事の百姓の存在が知られ、当時盛んに製塩作業が行われていたことがうかがわれる。

中世の遺跡としては、児島半島の丘陵や山頂に城跡が多く見られる。玉野市荘内地区には常山城跡（注 13）・麦飯山城跡が存在している。山田地区から番田地区にかけては特に城跡が集中しており、高畠城跡・丸山城跡・番田城跡・柏引城跡・胸上城跡・矢の端城跡・屋敷山城跡、日比地区には地蔵山古墳から南へ約 700m の位置に四宮城跡が存在する。

このように出崎灰出 1・2 号墳の周辺には、先土器時代から戦国時代にかけての遺跡が数多く存在するが、突出して目につくのは各時代の製塩に関する遺跡である。玉野市の海岸部あるいは、遺跡が機能していた時期には海岸であったと思われる位置には、製塩に関する遺跡が連続して存在していることから、出崎灰出 1・2 号墳は製塩に関する遺跡と、何らかの関係があるのではないかとの予想が調査前から立てられた。

注

- (注 1) 西川宏・杉野文一「岡山県玉野市宮田山西地点の石器」『古代吉備』第3集 1959年
- (注 2) 「下野市の夜明け（先土器時代）」『玉野市史』玉野市役所 1970年
- (注 3) 鎌木義昌・高橋謙「縄文時代の発展と地域性—瀬戸内—」『日本の考古学』Ⅱ 河出書房 1965年
- (注 4) 平井勝「玉野市波張崎遺跡確認調査報告」『玉野市埋蔵文化財発掘調査報告』(1) 玉野市教育委員会 1980年
- (注 5) 「採取の生活（縄文時代）」『玉野市史』玉野市役所 1970年
- (注 6) 佐藤美津男「児島郡日比町の場山遺跡（略報）」『吉備考古』第37号 1938年
- (注 7) 近藤義郎・小野昭「岡山県貝殻山遺跡」『高地性集落跡の研究』資料編 学生社 1979年
- (注 8) 間壁忠彦「玉野市田井深山遺跡」『倉敷考古館研究集報』第6号 倉敷考古館 1969年
- (注 9) 「製塩・祭祀遺跡と後期古墳（古墳時代）」『玉野市史』玉野市役所 1970年
- (注 10) 福田正繼「沖須賀遺跡」『玉野市埋蔵文化財発掘調査報告』(2) 岡山県玉野市文化財保存会 1981年
- (注 11) 「製塩・祭祀遺跡と後期古墳（古墳時代）」『玉野市史』玉野市役所 1970年
- (注 12) 「蘇我氏と児島屯倉・児島屯倉と吉備海部羽島（飛鳥時代）」『玉野市史』玉野市役所 1970年
- (注 13) 冈本寛久「常山城発掘調査報告」『玉野市埋蔵文化財発掘調査報告』(1) 玉野市教育委員会 1980年



第2図 古墳位置図 (1/5,000)

第3章 調査結果

第1節 発掘調査の概要

発掘調査にかかる以前に、18m四方の鉄塔建設と周辺整備にかかる区域を調査区域として設定した。調査区域は、ほぼ南北に伸びる緩やかな尾根の稜線上に設定されており、当初緩やかに下るこの尾根の西側の斜面は、尾根の稜線から約20m下ったあたりから急峻な崖となり、海に落ち込んでいる。

これに対して東側の斜面は、同じく約5m程やかに下り、浅い谷を隔てて隣のやはり程やかな尾根に続いている。

発掘調査は、まず調査区域内に十字にトレーナーを掘削した。

その結果、当初1基であると思われた古墳は、ほぼ南北に伸びる緩やかな尾根の稜線上に、2基並んで構築されていることが判明した。

そこで、北側を「出崎灰出1号墳」、南側を「出崎灰出2号墳」と仮称し、1号墳から調査を実施した。

第2節 出崎灰出1号墳

1. 墳丘

発掘調査の結果、墳丘の規模は石室直行方向で約11m、石室長軸方向で現存は約12mを測る円墳であることが判明した。墳丘高は墳丘頂部が後年に大きく削平されていたため現存で約70cmを測る。

2. 周溝

墳丘の周囲には周溝と思われる遺構は検出できなかったが、石室開口部前面に溝状の掘り込みを検出した。調査区域の境に接して検出されたため、全貌を明らかにすることはできなかつたが、この掘り込みは墳丘の周囲を巡っておらず、前途の深い谷とほぼ同位置になることから、この掘り込みは墳丘構築当時にはすでに存在し、谷として機能していたが、墳丘盛土の流出によって次第に埋没し、現在の深い谷になったものと思われる。

3. 横穴式石室

本古墳の内部構造は、横穴式石室である。

石室は奥壁から開口部に向かって左袖式の横穴式石室で、石室床面での計測値は、全長約3m、奥壁部分での幅約1.7m、石室残存高は最高部で約0.9mを測る。羨道部の全長は約1.7m、幅約0.65mであり、閉塞施設および石室と羨道を区別する境石が認められた。

石室全長のほぼ半分にあたる、奥壁から約1.5mの範囲の床面には拳大の河原石が敷き詰められ、この河原石と地山の間には比較的目立つ荒い海岸砂が2～3cmの厚さで敷かれており、結果的に河原石と河原石の間を埋める形になっている。また、海岸砂は、境石までの床面にも統けて3～5cmの厚さで敷かれていた。開口部付近の海岸砂上にも河原石が数個残存しており、古墳構築時、石室内には河原石が全面に敷き詰められていたと予想され、開口部周辺の河原石は盗掘を受けた時点で除去されたのではないかと思われる。

天井石はすでに除去されており、石室内の河原石と同様、盗掘を受けた時点で除去されたと思われる。周辺を精査したが、天井石に使用されていたと思われる石材は発見できなかった。

4. 出土遺物

1号噴石室内からの出土遺物の種類は、須恵器、土師器、製塙土器、鉄器、装飾品、滑石製紡錘車等である。

須恵器の器種と数量は、杯身1点、杯蓋2点、短頸壺2点、壙1点、小型朱壺1点が出土している。

土師器に関しては小型短頸壺の完形品1点、破片1個体分が出土しているが、復元不可能なほどの小破片も多数出土している。

鉄器に関しての遺物は、鉄鎌・刀など8点が出土している。

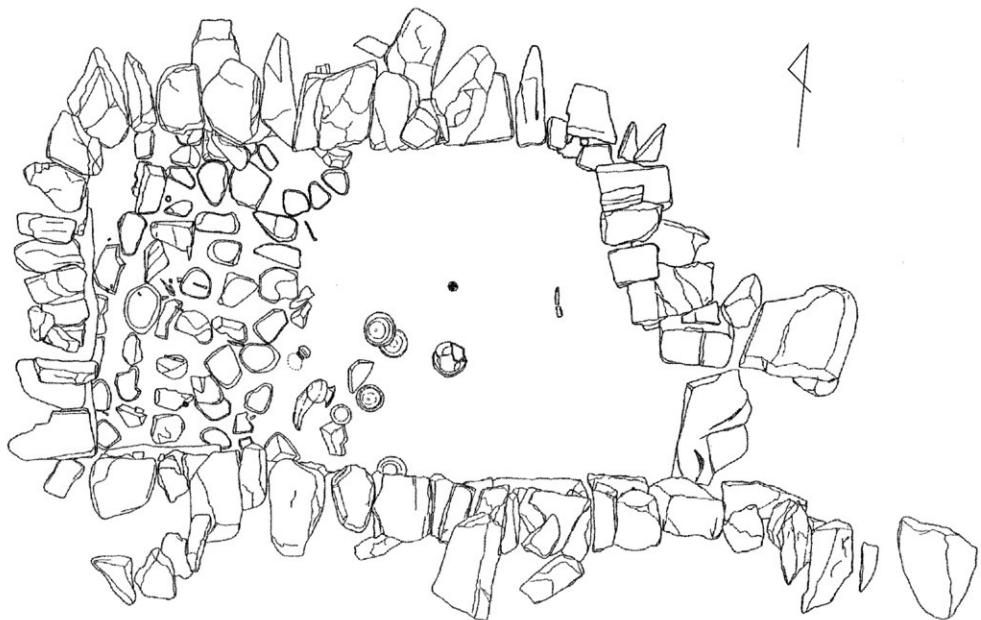
装飾品としては、耳環が2点、管玉が7点出土している。

鉄器と装飾品は奥壁に近い河原石の床面上から比較的分散して検出されているが、土器類は石室中央の海岸砂の床面上から比較的集中して検出された。

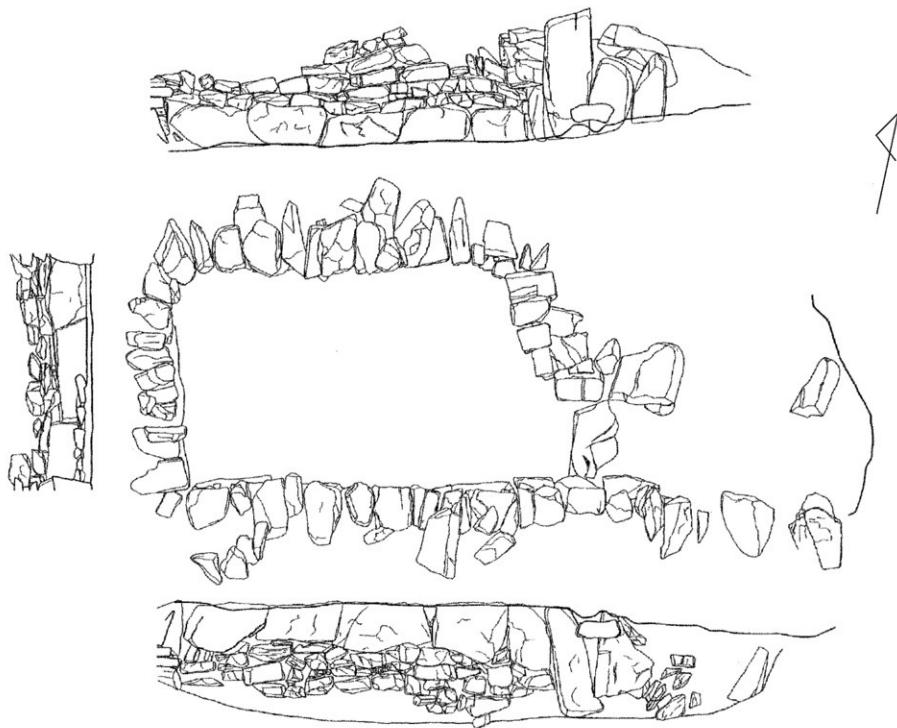
周溝の頂で触れた石室開口部前面で検出した溝状の掘り込み内の地山面上から、須恵器の杯身1点と杯身および杯蓋の破片数点を検出した。

石室内から検出された杯と比較の結果、石室内のものより若干古いものであり、追葬の際廃棄されたものと思われる。

追葬の行われた時期にはこの掘り込みは存在しており、周溝としての機能を部分的に果たしていたのではないかとの予想がたてられる。



第3図 1号填石室及び石室内遺物出土状況 (1/20)



第4図 1号墳横穴式石室実測図 (1/30)

第3節 出崎灰出2号墳

発掘調査の結果、横穴式石室開口部の相当すると思われる部分とその周辺が調査区域外になつており、開口部周辺の状況は判明しなかった。

1. 墳丘

前述のとおり、墳丘の一部が調査区域外であったため、石室直行方向では約15m、石室長軸方向の規模は判明しなかつたが、調査を実施した範囲での規模は約13mを測る円墳であることが判明した。墳丘高は墳丘頂部が後年に大きく削平されていたため現存で約90cmを測る。

2. 周溝

これも前述のとおり、墳丘の一部が調査区域外であったため、石室開口部周辺の状況は判明しなかつた。また、調査区域内にも周溝を確認することはできなかつた。

3. 横穴式石室

本古墳の内部構造は、横穴式石室である。

石室の開口部周辺は調査範囲外であったため、開口部周辺の状況や石室の全長は判明しなかつた。調査を実施した石室床面での計測値は、西側側壁部分で約2.5m、東側部分での幅約1.5m、石室残存高は最高部で約1.5mを測る。

1号墳と同様天井石はすでに除去されており、盗掘を受けたものと予想される。周辺を精査したが天井石に使用されていたと思われる石材は発見できなかつた。

墳丘盛土の二次堆積を除去すると、奥壁およびその周辺の側壁のものと思われる石材が石室内に崩落しており、盗掘を受けた影響により崩落したものと思われる。

4. 出土遺物

2号墳石室内からの出土遺物の種類は、須恵器、土師器、鉄器、装飾品、水晶柱片等である。

須恵器の器種と数量は、杯身6点、杯蓋4点、横瓶1点が出土している。

土師器に関しては破片1個体分が出土しているが、復元不可能なほどの小破片も多数出土している。

鉄器に関しての遺物は、太刀・鉄鎌など約60点が出土している。

装飾品としては、耳環が2点、管玉が7点、白玉が18点出土している。

水晶柱片は、六角柱のうち三面および両端部が欠損しており、現存している三面を正面にして角柱の稜線を縱にした場合の寸法は、縦約5cm、横約4.2cm、厚さ約3cm、重量約67gであった。

石室開口部周辺の状況は前述のとおり判明しなかったが、遺物は石室中央部から集中して検出され、奥壁周辺からは遺物は検出されなかった。

5. 石室外出土遺物

調査区域内からは、天バコに12箱の埴輪片が検出された。うち、人物埴輪が1点出土している。ほかはすべて円筒埴輪である。

円筒埴輪のうち、3基が尾根の稜線と平行して斜面をやや西側に下ったところに、約30cmの間隔をもって基部のみ残存していた。それ以外の埴輪は、墳丘の斜面あるいは墳端から破片として検出された。

かなり狭い調査区域であった点を考慮すると、周辺部を精査すればまだかなりの数の埴輪片が検出できるのではないかと思われる。



第5図 2号墳石室及び石室内遺物出土状況 (1/20)



第6図 2号墳横穴式石室実測図 (1/30)

第4章　まとめ

出崎灰出1号墳および2号墳は、発掘調査の結果、横穴式石室を主体とする古墳時代後期の円墳であることが判明した。また、現段階では出土遺物のうち环による年代の想定しかできていないが、1号墳は6世紀後半終わり頃、2号墳は6世紀後半始め頃のものであることが判明した。

2号墳の南には、さらにもう1基の古墳の横穴式石室のものと思われる石材を確認しており、時代を若干ずらして古墳が連続して構築されたことが判明した。

出崎灰出1・2号墳の位置する尾根の東側の谷は、「出崎D地点」として周知されており、ここで製塙に従事した集団の首長の墳基であると思われる。



1. 出崎灰出1・2号墳遠景（南から）



2. 出崎灰出1・2号墳遠景（北東から）



1. 1号墳石室及び閉塞状況（開口部から）



2. 1号墳石室及び閉塞状況（奥壁から）



1. 1号填石室状況（北から）



2. 1号填石室内遺物出土状況



1. 1号墳全景（東から）



2. 1・2号墳検出状況



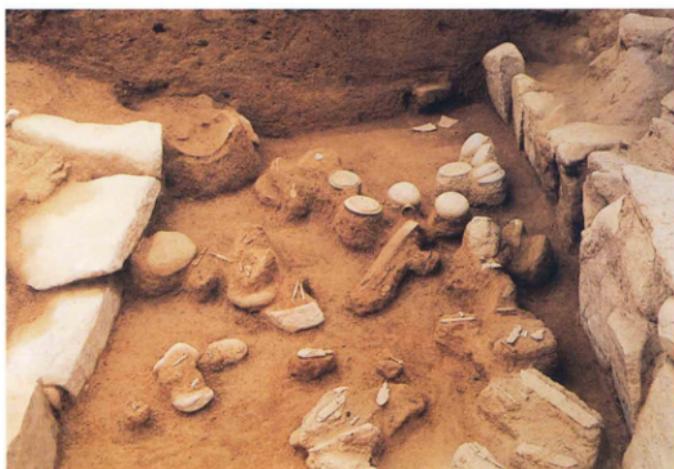
1.1号墳石室・閉塞石及び遺物除去後状況（開口部から）



2.1号墳石室・閉塞石及び遺物除去後状況（奥壁から）



1.2号墳遺物出土状況（開口部から）



2.2号墳遺物出土状況（奥壁から）



1. 2号墳石室内状況



2. 2号墳石室内完掘状況



1. 発掘調査終了後遠景（北から）
(鉄塔基部が古墳)



1. 1号填出土遗物



2. 1号填出土遗物



1.1号墳出土遺物



2.1号墳出土遺物



1. 1号墳出土遺物



2. 1号墳出土遺物



1. 2号墳出土遺物



2. 2号墳出土遺物



1. 2号墳出土遺物



2. 2号墳出土遺物



1. 2号墳出土遺物



2. 2号墳出土遺物



1. 2号墳出土遺物



2. 2号墳出土遺物



1. 2 号填出土遗物



2. 2 号填出土遗物



1. 2号墳出土遺物



2. 2号墳出土遺物



1. 墓丘部出土同筒埴輪



2. 墓丘部出土同筒埴輪



1. 墳丘部出土同筒埴輪



2. 墳丘端部出土人物埴輪

玉野市埋蔵文化財発掘調査報告(6)

出崎灰出1・2号墳

平成11年10月12日 印刷

平成11年10月20日 発行

編集 玉野市教育委員会
発行 出崎遺跡緊急発掘調査委員会
印刷 三造写真工業(株)玉野営業所

